

発行：2012年3月22日/発行責任者：特定非営利活動法人 シャンティ山口 代表 角 直彦
連絡先事務局 〒753-0215 山口市大内矢田 717 佐伯昭夫 電話/Fax 083-927-4083
ホームページアドレス：<http://www.shanti-yamaguchi.com/>

東京新聞掲載記事 平成24年3月20日(火)

中日新聞東京本社 2012 (日刊)

東京新聞

中日新聞東京本社
東京都千代田区外神田二丁目1番4号
〒100-8606 電話 03(6910)2211

貸ビル・リース事業・保険代理業
雨宮商事株式会社
新宿 西口
141 雨宮ビル ☎03-3342-0141

紙面について
●電話 03-6910-2201
土日祭日除く (9:30-17:30)
●FAX 03-3595-6935
購読申し込み
0120-026-999
1カ月定額納込み (朝・夕刊) 3250円
配達・集金について
03-6910-2556
TOKYO Web

◆記者の眼◆

2012年(平成24年)3月20日(火曜日)

タイ少数民族の子支援



東南アジアの貧しむる難民キヤンで無邪気に遊ぶ子どもを見た。周囲が理想とする教育の機会均等の大切さを痛感する。子どもが過酷な運命に負わずに未来を切り開くためには、食料や医療支援だけでなく、心の栄養が必要だ。

外国から支援してくれる人がいることを喜ばない。私たちは独りじゃない

どんな粗末で小さくても子どもの笑顔は幸せだ。タイ西部の山あいの寺子屋では、ミャンマー移民の子が先生の話を聞きこんでいた。カンボジア北部の地雷が除去された校庭では、大勢の子が歓声を上げてサッカーを遊んでいた。

世界のどこに生まれるかは分らない子どもたち。過酷な環境こそ、未来を思い描ける心の栄養が必要だ。子どもが運命を握るチャンスは、大人が用意しなければならぬ。(バングラダシュ)

今月初め、タイ北部バヤオ県で発生していた豪雪三年のエリート君(こ)が、タイ有数のテニス選手大谷日本選手村に合格したとメールで知らせてきた。オーストラリアの山岳地帯に暮らすモン族の出身。今年一月に寮で会った時は「日本語の教師になりたい」と話していたが、さぞ喜ぶに違いない。

少数民族のモン族やカ族の中、高校生約五十人が共同生活する学生寮は、山口県のホライティア団体「シャンティ山口」と山口県曹洞宗青年会などが十五年前に建設した。

「一九七〇年代にオーストラリアへ移ってきたモン族が、タイで自立して暮らしていきなれば教育が必要だった」とシャンティ山口の佐伯昭夫さん(左)は振り返る。山あいの貧しい村に学校はなく、険しい山道を下って遠くの学校に通うのは事実上不可能だった。

ところが人気選手ともなれば年々学校で上位の成績を収めるようになった。八年は

未来描く「心の栄養」必要

と前からはテニサー木などの難関を克服、卒業生のほとんどが奨学金を得て大学に進学。今年も卒業生十一人のうち八人が進学を決めた。

一年の半分をモン族の村で過ごす佐伯さんは「寮では炊事、洗濯、農作業と雑用が多く、勉強時間は少ない。それでも勉強が大好きで、タイ人に負けたくない」とこの民族の誇りが成績を向上させていると語る。

生徒たちは上質の米や野菜を作って市場で売り、代わりに安い米や野菜を買って帰る。着払いで文房具などを購入する。肉が食べられるのも年に数回だけ。「それでも子どもたちは元気いっぱい。勉強を手伝うのが楽しい」と職員リーダーのガランさん(右)は目を細める。

地元の大学に合格したガランさん(左)は「寮生協職員になるのが夢」。寮生協が実際に開かれた送別会で、後輩に語りかけた。

「未来を思い描かないで、



タイ北部バヤオ県の子生協を運営する少数民族の共同生活(左) 杉谷剛撮影

解説

—環境衛生活動募金にご協力をお願いします。—

2012.3.22saeki